



みんなで150周年に向かって！

川小だより

学校教育目標

・美点を認める明るい子 ・ルールを守る正しい子 ・背筋の伸びた丈夫な子

【目指す児童像・・・素直な子】

令和5年12月22日（金）No.11

狭山市立入間川小学校

〒350-1323 狭山市鶴ノ木5-9

TEL 04-2952-6221 FAX 04-2952-6222

児童数 12 / 21 現在
491名

年の瀬に

校長 伊藤 秀一

本日お陰様をもちまして、第2学期の終業式を執り行うことができました。式の中で一人一人の表情から、長かった今学期での学習や生活の実感ぶりが伺えました。子供たちには年末年始の休業期間を、今学期を振り返ることと、さらに成長するために新学期にどう臨むかについて考えられるような充実した時間にしてほしいとお話ししました。

ところで、この時期は手紙で、「年の瀬に向かい一層寒さ厳しくなりますが、お体を大切になさってください」のように結びます。これまで幾度となく使っておきながら私は、「瀬」という言葉を用いて年末を表すことについて、ときどき不思議に思っていました。しかしながら、きちんと考えたり、ましてや調べたりしたことがありませんでした。瀬という言葉からは、浅瀬や瀬戸内海など川や海の場所を指すイメージしか持っていませんでした。ですから、なぜ年末の時期を表す際に使うのか、疑問に思いつつ、恥ずかしながら今日に至った次第です。

改めて調べてみますと、「瀬」には「川などの浅くて徒歩で渡れるところ」「水流の急なところ」（「広辞苑」岩波書店）などの意味があります。つまり、年の瀬とは「川の流れが急な瀬のように、時が速く流れる時期」と言うことのようにです。確かに、この時期は年内に済ませようと、様々な用事にまとめて取り組みます。そのため一日一日があっという間に過ぎて、気がつく和大晦日になっていたりします。時の流れを川の流れに例えらるとは、いにしえの人々の発想は素晴らしいなと感心します。もしかしたら「川の瀬で足を取られるがごとく、忙しさのために注意を怠り、己を見失ってはいけない」という教訓も含まれているのかもしれませんが。

これまで「瀬」について関心がありながらも、改めて調べるようなことがなかったのも、押し迫った時間の流れの速さに足を取られていたためであり、単なる怠慢ではなかったのかもしれませんが。などと自分への気休めの言葉で一年の締めくくりとなるのは、大変心苦しいのですが、保護者・地域の皆様には本年も様々な面で、深いご理解と惜しまぬご協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。来る令和6年もどうぞよろしくお願いいたします。どうかよいお年をお迎えください。